

吉野川水系河川整備計画（点検）

学識者委員による現地調査を実施しました

吉野川水系河川整備計画

「吉野川の河川整備（国管理区間）」～但し、抜本的な第十堰の対策のあり方を除く～

国土交通省四国地方整備局では、吉野川水系において、今後概ね30年間で実施する河川整備の目標と内容についてまとめた吉野川水系河川整備計画を平成21年8月28日に策定し、河川整備等を実施しています。

《吉野川及び旧吉野川・今切川における河川整備の基本理念》

安全で安心できる
吉野川の実現

河川本来の
自然環境を有する
吉野川の再生

地域の自然・景観・社会
環境に調和し個性ある
吉野川の創造

関係機関や地域住民との情報共有、連携の強化を図りつつ
治水・利水・環境に関わる施策を効果的かつ総合的に展開します。

吉野川水系河川整備計画の点検について

点検の目的

河川整備計画は当面の具体的な河川整備に関する事項を定めたものであり、流域の社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映できるよう、適宜その内容について点検を行うものである。

点検の内容

- 1) 流域の社会情勢の変化（土地利用や人口・資産等の変化、近年の災害発生の状況等）
- 2) 地域の意向（地域の要望事項等）
- 3) 事業の進捗状況（事業完了箇所、事業中箇所の進捗率等）
- 4) 事業進捗の見通し（当面の段階的な整備の予定等）
- 5) 河川整備に関する新たな視点等（地震津波対策・大規模洪水対策等）

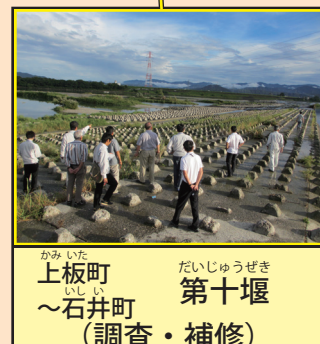
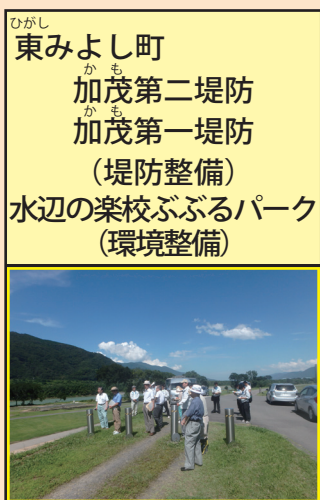
この度、点検の実施にあたり河川管理者の視点のみならず、点検結果の客観性を高めるため、第三者の意見を求める場として、各河川に精通している学識経験を有する者から構成される「吉野川学識者会議」を設置し、7月24日、8月11日、8月17日の3日間で18名の委員の方々を対象とした吉野川の現地調査を行いました。

吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属
池田 早苗	水質 (水環境)	徳島大学 名誉教授
渦岡 良介	地盤工学・地震工学	徳島大学大学院 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学工学部 教授
鎌田 磨人	生態系管理 (生態学)	徳島大学大学院 教授
河口 洋一	魚類学	徳島大学工学部 准教授
木下 覺	植物生態学	徳島県植物研究会 会長
上月 康則	水環境 (環境工学・生態系工学)	徳島大学大学院 教授
小林 實	鳥類	河川・溪流環境 アドバイザー
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学 教授

氏名	専門分野	所属
田村 隆雄	治水計画 (森林水文学)	徳島大学大学院 准教授
田村 典子	児童教育	四国大学生生活科学部 教授
中野 晋	沿岸域工学	徳島大学大学院 教授
中村 昌宏	地域経済	徳島文理大学総合政 策学部 学部長
平井 松午	歴史地理	徳島大学総合科学部 学部長
三神 厚	防災対策 (地震)	徳島大学大学院 准教授
武藤 裕則	洪水防御 (河川工学・水理学)	徳島大学大学院 教授
大和 武生	文化史・文化財	阿南市文化協会 会長
山中 英生	地域づくり	徳島大学大学院 教授

現地調査場所



委員からの主なご意見

- ◆洪水調節機能の向上に関して、ダムの容量の確保はどのように実施するのか。
- ◆ダムの魚道については、アユの遡上だけでなく、他の魚種についても調査するなど工夫が必要ではないか。
- ◆築堤後は土地利用規制をかけるなど、ソフト的な浸水被害の軽減策を講じることも必要。
- ◆新たに河川利用空間の整備を行う箇所では、既設整備箇所のレビューをしっかりと行った上で実施することが必要。
- ◆侵食箇所は樹木・砂州・左右岸の勾配などの状況により、移動するものである。樹木伐採や砂利を除去するなどの対応を考えていかないといけない。
- ◆侵食は大規模な洪水だけでなく、中小規模の洪水でも発生するため、適切な対応を考えていかないといけない。
- ◆川の中の砂州を固定化させるヤナギ類の伐採においては、水辺の生物への配慮も必要である。
- ◆第十堰の老朽化などの課題に関しては、地域に対してもっと発信しなければならない。
- ◆地震津波対策箇所においては、盛土を残す事により干潟を創出するなどの工夫を行ってはどうか。